

a la carte.

2023.6

あらかると

437

「クライアントと生活者、クライアントと地域、クライアントとクライアントをつなぐ」『あらかると』は株式会社ケンオリが発行する社外報です。



話して見つける本屋「石川屋」

話して見つける本屋「石川屋」

駐車場からスロープを下って、真っ白な店内に入ると、真っ先に目に飛び込んでくるのは天井から床まで並んだ絵本達。まるで絵本に包まれるような空間が楽しめる本屋、それが「石川屋」です。大型書店の進出や活字離れによって町の文化である本屋の役割が薄れるなか、絵本に焦点をあてながら本屋の新しい価値を提供しています。



絵本が持つ魅力

店内の壁面本棚は、本の高さや地震でも落ちない角度、そして見え方を考慮して作りました。「絵本は美術品と一緒に。絵本の顔である表紙を見せることで、その絵本が持つ魅力をより伝えることができる」と考え、表紙が見えるようにディスプレイしています。

並ぶ絵本も店主自ら厳選しています。国内はもとより、海外の絵本も多数あり、海外のものの中には1920年代や1970年代のものもあります。石版印刷やシルクスクリーンのものなど、どこか懐かしく美しい絵本も飾られています。作家別・テーマ別・系譜ごとに並べられていて、好きな絵本をたどると次々と新しい絵本に出会えます。この沢山の絵本の中から、その時の気持ちやその人の考えに合った絵本を店主と「話して見つける」こともできます。これは個人店だからこそできることです。あなただけの一冊・大切な人への一冊をぜひ見つけてみてください。



絵本の新しい世界

多い年には50か所以上に出向くなど、イベントも多数行なっています。今年の3月11日には「大人のための朗読会」と題し、郡山市出身の佐藤紳平さんのピアノをバックに東日本大震災後に物資を運んでくれた機関車の絵本「走れディーゼル機関車」を朗読しました。子供のものと思われがちな絵本ですが、大人が読むからこそ改めて気づく事、心に沁みる作品も沢山あります。また、絵本は「絵本と音楽」「絵本と珈琲」といったコラボによって、絵本の世界がより広がると考えていて、カフェや屋内外の様々なイベントに移動販売車「BookVAN」で出向き、移動販売も行っています。絵本の文化をたくさんの方に知っていただく機会になればと考えています。



▲移動販売車「BookVAN」

こどもへの絵本

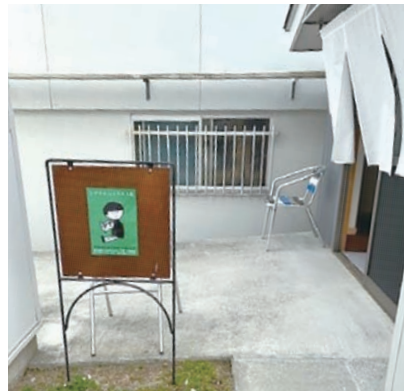
子供には背伸びした絵本ではなく、年齢に合ったものから成長に合わせて絵本を選んでみてください。そして、例えばおなじみでもリアルな絵のものとキャラクター的な絵のものと両方の絵本を選ぶといいと思います。2歳位までは絵本そのものを楽しむというよりは、絵本を通して親子の触れ合いのきっかけにするといいと思います。また、タイトルが手書きのものは作者のこだわりの表われです。絵本を見るときに参考にしてみてください。

大人にも、の絵本厳選2冊

「2番目の悪者」は「これがすべて作り話だと言えるだろうか」で始まる物語です。「野心家の葡萄」は野心に溢れた、一粒の若い葡萄の話。ワインバッグにすっぽり入るサイズでギフトにもピッタリ。読み終わったら本を開いた状態で表紙を見てみると…?ぜひ実際の絵本をご覧になってみてください。

ギャラリー「小箱」

店舗横の小さなギャラリー「小箱」ではイラスト展や原画展などを開催しています。夏休み頃にも楽しい企画を考えています。ぜひSNSなどチェックしてみてください!



▲ギャラリー「小箱」



石川屋

〒963-4602 田村市常葉町常葉中町36
TEL.0247-77-2001 営業時間/9:00~18:30 (日曜日定休日)



公式ホームページ



<https://ishikawaya.shop>

Facebook



石川屋

Instagram



@ishikawaya